

常磐高等学校 平成29年度 学校重点目標並びに自己評価表

(計画段階

・ **実施段階**)

学 校 運 営 計 画				評価(3月)		
学校運営方針	知育、徳育、体育の三位一体を基盤として、至誠の心を育み、自由清新な気風で、心豊かな行動力のある社会有為の人材を養成する。					
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標			B	
国公立大学等の進学実績が向上し、部活動や生徒会活動の活性化が見られた。授業満足度指数が向上し、生徒問題行動件数も減少したが、携帯電話やスマートフォンの不正使用が著しかった。また、情報処理検定協会特別会長賞を初めて受賞した。生徒が意欲的に授業へ参加するように授業改善を推進し、各種検定試験上級合格者数を増加させる。また、教職員の率先垂範による挨拶、時間厳守、清掃、整理整頓の徹底を図り規範意識を高める。	生徒の主体的な活動を促進し、心豊かで思いやりのある人間性を育てる。	教師の率先垂範による挨拶・時間厳守・整理整頓・清掃等の徹底を図り、規範意識を向上させる。				
	生徒が意欲的・自主的に学習に取り組む姿勢を伸長し、学力を向上させる。	教育活動全般で生徒が自主的に取り組み意欲や仲間意識、コミュニケーション能力等を育てる。				
	生徒の特性や能力を伸ばし、個性に応じた適切な進路指導を展開する。	生徒の自己教育力を育成するため、学習習慣の定着に向けた指導の充実を図る。				
	自他の安全を確保する指導を充実し、心身ともに健全な生徒を育てる。	アクティブラーニング等の学習指導法を研究し、生徒の能動的学習態度を育成する。				
		教職員の組織力を活用し、進路実現に向けた積極的な個別指導を実践する。				
		効果的な進路指導を実践するために、各種進路情報を共有化してデータの有効活用を図る。				
		教育活動全般を通じて、発達段階に応じた道徳教育・人権教育を推進する。				
		学校行事・ホームルーム活動・部活動において、健康管理や安全に関する指導を徹底する。				
	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	
学習指導	教科指導力の向上	・生徒による「授業評価」(授業アンケート)の結果を分析し、改善点を見出し、より良い授業を創造する。	C	B	B	生徒による「授業評価」の取り組みができなかった。「授業満足度」は81.4%であった。次年度は「授業評価」を実施して生徒が積極的に参加する授業改善の取り組みを推進する。
		・定期的な生活アンケート調査結果により、さらに授業改善を図り、生徒の「授業満足度」100%を目指す。	B			
学習意欲の向上		・「ICT」活用教育や「アクティブラーニング」形式による授業を研究・導入し、生徒の積極的な授業参加を促す。	B			
		・生活アンケートにおいて「家庭学習時間 1時間未満」生徒を減少させ、学習習慣改善に繋げる。	B			
進路指導	進路学習の充実	・進路指導のしおり「進路マニュアル」の内容がさらに充実するように努め、各学年に応じた有効活用を図る。	A	A	B	成果の向上が見られたAO・推薦入試の組織的な取り組みを発展継続させてセンター・二次私大入試の情報を収集して目標達成を図る。情報検定試験で会長賞受賞者数は挽回した。更に上級合格を目指す。
		・各種資格、検定のさらに上級を取得させ、情報処理検定においては「協会会長賞」受賞数で全国1位を目指す。	B			
	希望進路の実現	・「進路説明会」の実施により、生徒と保護者に入試システム等の情報を提供し、受験に対する意識向上を図る。	A			
		・各学年で定期的に模擬試験等の「結果分析会」や「進路検討会」を実施し、国公立大学30人以上合格させる。	C			
生徒指導	規範意識の向上	・教師の率先垂範による凡事徹底を図り、「礼節」を重んじて「思いやり」のある明るい学校生活の実現を目指す。	C	B	B	問題行動件数が増加する中、順法精神やマナー遵守の指導を徹底する。部活入部率は55.0%であった。生徒会中心の各種行事運営が徐々に成果を見せた。委員会活動の活性化を試みる。
		・マナー向上のために「交通安全教育」の充実を図り、諸機関と連携して非行防止や防犯教育を計画的に実施する。	B			
	生徒会活動の活性化	・部活動を充実させ「加入率70%」以上を目指すとともに、心の指導を充実させ愛校心発揚の核となる生徒を育てる。	B			
	・生徒会活動を活性化し、学校行事等の企画・運営を精力的に取り組み、「自主・創造の精神」を育成する。	A				
その他	道徳教育・人権教育の充実	・「積極的な生徒観察」により生徒理解を深め、強い信頼関係を築き、いじめやつまずきへの早期対応に努める。	B	B	B	生徒、保護者を含め地域からの信頼を高めると共に一層親身な指導を実践する。組織的な対応で進路変更生徒を減少させる。スピード感のある幅広い広報活動を実践する。
		・「サポート委員会」と「スクールカウンセリング」の連携をより充実させ、進路変更生徒の減少に努める。	B			
	広報活動の充実	・「広報部」と「部活顧問」の連携強化を図り、迅速にホームページを更新して魅力的な内容で閲覧を促進させる。	A			
	・進学実績を向上させるとともに部活動を活性化させて、「推薦入試受験生100名」を目指す。	B				